

福岡県鉱工業指数の作成要領

1. 基準年

平成27年を基準年とする。したがって、指数は平成27年の年平均を100.0とした比率で示され、ウェイトは平成27年の産業構造による。

2. 分類

分類は、日本標準産業分類を基本とした業種別分類と製品の経済的用途に着目した財分類の2通りの方法による。

(1) 業種別分類

業種分類については、利用の便宜上、日本標準産業分類（第12回改定）の中分類に、次のような組み替えを行っている。

- ア. 「汎用機械器具製造業」、「生産用機械器具製造業」を統合した「汎用・生産用機械工業」を設ける。
- イ. 「食料品製造業」と「飲料・たばこ・飼料製造業」を総合して「食料品・たばこ工業」とする。
- ウ. 「なめし革・同製品・毛皮製造業」、「業務用機械器具製造業」、「情報通信機械器具製造業」、「その他の製造業」は基準時のウェイトが小さいことから、業種分類を設けず、系列を非採用とする。

(2) 財分類（特殊分類）

財分類は、最終需要に向けられるものを「最終需要財」とし、生産活動に再投入されるものを「生産財」とする。

最終需要財については、資本形成に向けられる「投資財」と家計で消費される「消費財」に区分する。さらに、投資財を設備投資に向けられる「資本財」と建設関連の「建設財」に、消費財を「耐久消費財」と「非耐久消費財」にそれぞれ分ける。

生産財については、鉱工業生産活動に再投入されるものを「鉱工業用生産財」、鉱工業以外の生産活動に投入されるものを「その他用生産財」とする。

3. 採用品目

採用品目は、業種ごとに代表性及び代表率を考慮し選定した。生産指数の採用品目数は150品目、生産者出荷指数の採用品目数は149品目、生産者在庫指数は93品目である。

4. 資料

(1) ウェイトに関するもの

平成28年経済センサス - 活動調査及び生産動態統計調査

(2) 生産・出荷・在庫数量に関するもの

主に生産動態統計調査を基礎データとしているが、一部品目における資料出所は次のとおり。

資料出所	品目名
農林水産省大臣官房統計部	製材品、枝肉、処理牛乳
九州農政局福岡農政事務所	小麦粉
福岡県酒造組合	焼酎、清酒
県保健医療介護部薬務課	医薬品
県企画・地域振興部調査統計課	鋼船、鋼船修理、シリコンダイオード、生コンクリート、大型紙袋、木箱、ハム・ソーセージ、海苔、味噌、醤油、固型カレー、その他の調味料、植物油脂、冷凍調理食品、弁当、砂糖、清涼飲料、たばこ、パン、麺類

5. 総合算式

総合算式は、個別系列を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均法、いわゆるラスパイレス算式である。

6. ウェイト

ウェイトは、生産指数については付加価値額ウェイト、生産者出荷指数は出荷額ウェイト、生産者在庫指数は在庫額ウェイトである。

業種別ウェイトについては、経済センサス活動調査を基礎データとして、指数の業種分類・概念に適合するよう組換えを行った上で算出した。

品目別のウェイトについては、工業統計のほか生産動態統計等により単価・金額等を推計し、業種別ウェイトを採用品目の金額構成比により按分した。

7. 季節調整

一般に、経済指標時系列の変動要因は以下の4つの構成要素から成り立っている。

- (1) 長期変動（傾向・趨勢変動）：Trend factor
長期にわたる基本的な変動方向を表す波動
- (2) 短期変動（循環変動）：Cyclical factor
通常3～15年までの周期の確定しない波動
- (3) 季節変動：Seasonal factor
1年を周期とする波動
- (4) 不規則変動：Irregular factor
突発的な変動要因や原因不明の錯乱要因

経済データの変動をみる上で、季節的な変動は景気の基調に基本的には無関係であり、季節変動を除いた上でデータの変動を分析する方が都合よいことから、本県では米国商務省が開発したセンサス局法のX-12-ARIMAによる季節調整を行っている。